

学校概要

|                      |      |     |      |                |       |    |       |        |      |
|----------------------|------|-----|------|----------------|-------|----|-------|--------|------|
| 創立                   | 52周年 | 学校長 | 大木 巧 | 副校長            | 川又 宏之 | 学期 | 2 学期制 | 児童・生徒数 | 637人 |
| 学級数 一般級： 19 個別支援級： 3 |      |     |      | 主な関係校： 十日市場中学校 |       |    |       |        |      |

学校教育目標

ゆめ・希望・共生 笑顔いっぱい十日市場小  
 ① 基礎基本をしっかりと理解し、自ら課題を発見し、主体的に解決できる子を育てます。  
 ② 自分らしさを知り、ゆめをもって生き生きと行動できる子を育てます。  
 ③ 自ら心と体を健やかに育み、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。  
 ④ とともに学びあい、地域と豊かなかかわり合いができる子を育てます。  
 ⑤ 様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

学校の特徴

- 大小様々な公園や新治市民の森などの自然に囲まれ、学区に図書館や地区センターなど公共施設にも恵まれ、生活科や『横浜の時間』の学習に活用できる材が豊富である。
- 保護者・地域の方の協力の下、全校で田んぼ活動に取り組み、生活科、総合的な学習にしっかりと位置づけられた充実した活動を行っている。
- オープンスペースの教室環境を生かした、多様な活動の授業づくりを行っている。
- 児童指導、特別支援教育に力を入れ、学習面、人間関係、環境面において安全安心して通える学校づくりを目指している。

学校経営中期取組目標

○ 学校教育目標を実現するために、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。  
 ・ 子ども一人ひとりが、わかる・できる楽しさを実感した、魅力ある授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。  
 ・ 自分や相手を大切に思いやり、礼儀や感謝の気持ちをもって周りの人と豊かに関わろうとする心の育成を図ります。  
 ・ 子ども自らが学校の主体となって、様々な活動に取り組みようとする意識と態度の育成を図ります。

小中一貫教育の取組

|             |   |                               |
|-------------|---|-------------------------------|
| 十日市場中学校     | ブロック  | ： 十日市場中学校・十日市場小学校・三保小学校・新治小学校 |
| 9年間で育てる子ども像 | ○ 自他を大切にしながら、地域や人とのかかわりの中で学び、社会に貢献する子どもを育てます。   |                               |
| 自校の具体的取組    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校の接続を意識した教育課程の実施・改善を進める。</li> <li>・ 合同授業研究会を中心とした授業交流、相互情報発信と相互理解の推進に取り組む。</li> <li>・ 義務教育9年間の発達段階を考慮した児童生徒指導のあり方の共通理解を図る。</li> </ul> |                               |

| 重点取組分野    | 取組目標  | 具体的取組  |
|-----------|---|--|
| 確かな学力     | ■ 自ら見通しをもって主体的に学習に取り組む、「学び合い」を重視した授業を通して、基礎基本の確実な定着を図る。               | ■ 「授業のユニバーサルデザイン化」を通して、わかる、楽しい授業を展開し、豊かな関わりをもてる子の育成に取り組む。■ ペア学習、グループ学習等様々な学習形態を適切に取り入れた、主体的な学び合いを通して思考判断力の育成を図る。   |
| 担当        | 学力向上研究部会  |  |
| 豊かな心      | ■ 人権教育、道徳教育を中心に、日常生活やさまざまな教育活動の中で、自分の良さを実感し、互いを認め合い思いやりある心情や態度を育てる。   | ■ 「心をつなぐ言葉」を学校全体で共有し、よりよい人間関係を築いていく。■ 地域の方や保護者との関わりを大切にするとともに、『横浜の時間』『まちたんけん』『幼保小の交流』を通して、「人」とのつながりを生かし感謝・礼儀の大切さに気づけるような学習を展開する。■ 各教科・領域の活動と道徳教育とのつながりをもたせ、思いやりの心を育てていく。 |
| 担当        | 道徳推進部会  |  |
| 健やかな体     | ■ 基本的な生活習慣に関する活動に全校で取り組む。また、運動に継続的に取り組みながら体力向上を目指す。                   | ■ 一校一実践(十小タイム)で体力の向上に励む。■ 学校保健委員会を中心に、食事・運動・睡眠・歯磨きの4つのテーマを軸に自らの生活を振り返り、継続的に取り組む。■ 栄養教諭と連携しながら全学級で食育に関する授業を行う。  |
| 担当        | 体力向上研究部会  |  |
| 児童生徒指導    | ■ 小中一貫した学校スタンダードをもとに、育てたい子ども像を明確にした指導を行う。                             | ■ 全職員が「学校の決まり」や「児童の情報」を共有して、指導にあたるように努める。■ 職員会議等で児童の情報共有のための時間を確保し、全職員で共通理解を図り指導にあたる。  |
| 担当        | 児童指導委員会   |  |
| 地域連携      | ■ 保護者・地域と一体となった、開かれた学校づくりに努める。  | ■ すくすく田んぼ：全学年児童が活動に関わることで地域と食に対する理解を深めていく。■ 学校ボランティア：子どもたちの学校生活や授業の充実、安全管理と学校への理解を深めるために、地域の人材の協力を呼びかけ、一体となった教育活動を推進する。■ 地域行事：学校が協力できることを考え、児童と職員が積極的に参加できるようにしていく。      |
| 担当        | 特別委員会   |  |
| 特別支援教育    | ■ だれもが安心して学習や学校生活に取り組めるよう、個別の指導計画を充実・共有する。                            | ■ 特別な支援が必要な子どもについて、個別の教育計画や指導計画をたて、すべての教職員が共通理解をもって関わる。■ ユニバーサルデザインを意識した授業づくり、環境づくりに取り組んでいく。■ 交流委員会や学年研、事例検討会で情報交換や特別支援についての理解を深める。                                      |
| 担当        | 特別支援教育委員会   |  |
| いじめへの対応   | ■ いじめの防止、早期発見に向けて、啓発や未然防止に向けた対策に取り組む。いじめが予見または認知された場合は適切、迅速に組織的対応をする。 | ■ YPプログラムを積極的に活用し、いじめについて正しく理解し、いじめに向かわない態度や能力を育成する。■ いじめの防止、早期発見のために定期的なアンケート調査や教育相談などを積極的に行う。■ いじめが予見または認知された場合は、「いじめ防止対策委員会」で迅速に対応する。その際、必要に応じて関係機関、専門機関との連携をする。      |
| 担当        | いじめ防止委員会  |  |
| 人材育成・組織運営 | ■ 校務のむだを省き、効率的、計画的に研修を行う。■ チーム十小を合言葉に、教職員全体で共通理解に務め学校運営をしていく。         | ■ 授業研究を充実させ教職員の能力開発や相互の学び合いなど学校全体で人材育成に努めていく。■ 5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。■ 主幹教諭・児童支援専任・主任などのミドルリーダーを中心とし、共通理解をもって組織的に学校運営を行っていく。              |
| 担当        | 教務部   |  |